

確かな読みの力を育てる説明文の指導

～体験し書く活動を取り入れて～

目次

I	テーマ設定の理由	43
II	研究仮説	43
III	研究内容	44
1	確かに読むとは	44
(1)	読み取るための体験活動	45
(2)	書く活動を取り入れた確かな読み	46
2	確かな読みの力でつきたい能力や技能	49
3	確かに読み取らせるための指導の工夫	51
(1)	体験し書く活動を取り入れた学習過程	51
(2)	評価について	52
IV	授業の実践	53
1	単元名	53
2	単元の目標	53
3	単元設定理由	53
(1)	学級の実態	53
(2)	指導について	54
4	単元における基礎的・基本的事項	55
5	教材研究	55
(1)	文章構成	55
(2)	教材分析	56
6	指導計画	57
(1)	単元の展開	58
7	本時の指導	60
V	結果と考察	62
1	確かな読み取りをさせるための手だて	62
(1)	題名読みを大切に	62
(2)	課題文をつかむ	62
(3)	体験活動を通して	63
(4)	書く活動を通して	64
VI	成果と今後の課題	65
1	成果	65
2	課題	65
	《参考・引用文献》	

浦添市立仲西小学校教諭

大 浜 千 枝

確かな読みの力を育てる説明文の指導

～体験し書く活動を取り入れて～

浦添市立仲西小学校教諭 大 浜 千 枝

I テーマ設定の理由

文章を読んでいく過程で「もっと知りたい」「なぜだろう。不思議だね」などと、感動を発生し、知的好奇心を大いに湧きたたせ、意欲をもって読み進めていく子ども達を見ると頼もしく思える。

ところが、読書の感想でも「おもしろかった」「かわいそうだった」の言葉でまとめてしまい、内容に対して共感したり、疑問を持ったりすることのできない子がいる。これは直接的体験が乏しいことにも原因があると考えられる。体験を通して物事を深く捉える力が不足しているのではないだろうか。

新指導要領で、子ども達の思考力の育成が強く求められているように、国語科における論理的思考や自分の考えを相手に的確に伝える表現力の育成は説明的文章教材の負うところが大きいものとする。このことから、国語科の学習において「説明文の学習で何を学びとったらよいか」「どんな指導法が効果があるのか」などを考え、説明文の基礎的・基本的事項を押さえて、子どもが楽しく学習するための授業をめざして実践してきた。

結果として、説明的文章について興味・関心が高まり、言語に関する知識などは身につけてきつた。しかし、説明の順序に従って、場面の移り変わり、事柄の順序などを正しく読みとっていく力が十分身につけていないと言えなかった。

このような理由から、順序を表す言葉に着目して正しく読みとり、子どもの知的欲求を満たし、新しい認識を得る喜びを味わわせる確かな読みの力を育てることが大切だと考えた。それは、もちろん読む活動を通して養われることは言うまでもないが、文章を読んで話し合っているだけでは、子どもに確かな読みの力をつけることは不十分である。叙述の読みをより確かなものにしていくために、子どもが文章を読みながら実際に体験し、さらに書かせることにより、効果的な読みができるものと考えている。又、説明文を書く活動を通して、科学的、論理的なものを見方、考え方でできる子どもを育てていきたい。

そこで、本研究では、説明文の基礎的、基本的事項をさらにあらいなおし、ひとりひとりが確かな読みの力をつけるために、子どもが興味を持つおもちゃ作りを題材に取り上げることにした。おもちゃの作り方の文章を叙述に即して読みとらせ、どんな順序でどのように書いたらよいかを理解させ、書く活動へとつなげることによって、確かな読みの力が培われるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

説明文教材の読みの指導において、基礎的・基本的事項をおさえ、体験し書く学習を取り入れることにより、ひとりひとりの子どもの確かな読みの力を高めることができるであろう。

Ⅲ 研究の内容

1 確かに読むとは

「確かな読み」について、石田佐久馬氏は「書くことを生かした説明文」の著の中で「確かに読むとは教材文に正対して読む、つまりその文章から離れないで正確に読み取ることである。」と、述べている。

説明文の読みは、筆者の見方、考え方を追求する読みである。読む活動を通して内容的価値とそこで指導する言語事項、技能、態度が一体となってはじめて子どもの能力は、形成するものだといわれている。

そのための学習の中心活動として、次のことが明示されている。

- ・読みのめあてを明確にする。
- ・文頭の接続語に注意し、段落ごとの要点を正確に把握する。
- ・文末表現や指示語に注目し、文章構成の前後関係を正しくつかむ。
- ・語句の内容を比較させながら、叙述に即して正しく読み取る。
- ・書き出しの観点をはっきり押さえ、どんな順序で結論を出しているか構造的に読み取る。

文章を読むということは、文字、語句が、読めるということから、書かれている内容を理解して分かるということまでの意味をもっている。この内容が分かるということは、文字が読め、語句のもつ意味が理解され、筆者の表現しようとしていることや書こうとしていることが分かることである。私たちが文章を読むとき、説明的な文章であればあるほど、まず、内容を正確に読み取らなければならないといわれている。

しかし、内容を確かに読み取るためには、一字一語の重みや言葉の使い方の違いなどにも注意しながら確かに読む必要がある。文字による表記を目で正しく認知し、語句と語句との関係や文と文との結びつきを考えながら、あるいは意味付けながら文章の意味を理解するのである。

そこで、文章を確かに読むためには学習過程の中で説明文のキーワードをどのように捉えていったらよいのか、2年生の説明的文章の教材「作り方のじゅんじょは」を通して述べてみたい。

2年生では、「事柄の順序や場面の移り変わりを中心にして内容を理解すること」が重点的な指導事項である。ともすれば、主観的で自分本意の読みに陥りやすいこの時期に大切な指導である。「文章の叙述に即して正しく内容を読み取ろうとすること。」と関連づけながら「順序を考えながら読み取る」指導をすることが重視されなければならない。このような指導事項をふまえた確かな読みをするためには、まず、読みのめあてをきちんと把握することである。筆者が説明しようとする内容が凝縮している題名や、読み手をより興味深く読もうとする意欲を喚起する前書きの文への着目も、めあてをつかませるポイントになると考えられる。

この教材は、子どもが興味のあるおもちゃの作り方の説明的文章である。子どもが読みの対象とするものは作り方の手順である。実際に作りながら書かれていることが、その通りかどうかを確かめる読みになる。おもちゃの作る順序や注意に気をつけて確かに読まないとうまく作れない例えば、順序を表す言葉「はじめに」「つぎに」や、作り方の注意「すきまがないようにきつく

まきます」という文などに気をつけて読み取らなければならない。つまり、接続語に注意して先行文や後行文との関係を手がかりにして内容の展開を捉えたりする。また、理解が不十分であったりするところは、文章に返って読み直したりする。こうして要点をつかみ、体験を通して話し合っていく中で、叙述の読みを確かなものにしていくことができるものとする。さらに、教材文の構成から、文末表現「～ますか」「～です」「～でしょう」や、指示語「この」「その」などを注意深く読み取っていく。それに図や写真を読むことも忘れてはならない。それぞれの写真がどの部分とつながるかを写真をみて話し合いながら読み取ることもたいせつである。

要するに確かな読みは、上記の石田佐久馬氏の「確かに読み取るための学習のポイント」と、その学年指導事項を念頭において、実際に教材の中で具体化されることが大切であるとする。

(1) 読み取るための体験活動

有田和正氏は、体験活動について「生活の構造や生活の動きが、しみじみとわかるようにするには体当たりの学習を必要とする。体当たりは文字通り体全体をとおしてものごとをとらえ、事象にはたらきかけ、ものをつくることである。借り物によらないで、自分自身のもので全力を上げて勝負すること、この体当たりが体験活動である。」と述べ、学習を本物にするには体験活動を重視せざるを得ないということである。

低学年の子供は、体験を通さないと理解することはむずかしい。

耳にしたことは……忘れる 目にしたことは……覚える やったことは……理解する
--

というように子どもが行動し、体を通してはじめて、本当に理解できるのである。子供が自らの意志でやろうとし、試行錯誤をくり返しながら自分の意志や、体を使って学習することは大切だと考える子どもの学習意欲を喚起させる、大きな要因としても上げることができる説明的文章の指導における体験活動は、文章を読み取るための一つの手段・方法としてとらえることができる。

自ら、確かめてみたいこと（課題）を体験をとおして、より確かなものとして意識していくと考えられる。つまり、体験活動の過程で、内容をより確かに読み取っていくのである。

したがって、体験活動と結びつけて理解させることにより子供達は、「わかった」「できた」と実感することができ、わかった喜びが味わえるのではないかと考える。

① 学習課題をひとりひとりのものにする。

ひとりひとりの子どもが学習課題をはっきりつかむことが、その学習を成立させる上で不可欠である。望ましいのは、子ども自身が学習を進めていく中から、新しい課題を見つけたいことである。この場合自らの課題を要求するわけだから、当然学習意欲も他の場合に比べて、比較にならない程高まって行くはずである。そこで、子ども自らが課題を見つけさせるような学習活動を工夫することが必要である。

② ひとりひとりの学習活動を保障する

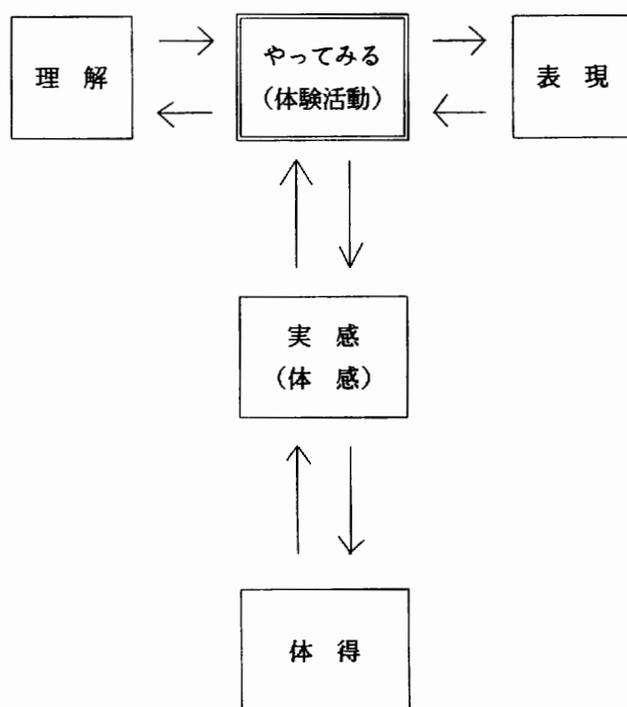
体験活動の持つ大きなねらいは、「ひとりひとりの学習活動を保障する」ということがあげられている。授業の中に子ども達の具体的な活動を通して、学習したと実感できるようにしていくことができ、それが意欲につながり学習への興味・関心は高まっていくと考えることができる。

③ 学習の仕方を学ばせる

ひとりひとりの子ども達に自力で学習を遂行し、目標まで自分を高めていくことができるような、学習の仕方を身につけさせていくことが大切である。

学習そのものを、自ら体験する中から子ども自身が一つずつ積み取っていくような学習、すなわち、体験活動をしていくことが大切である。

体験活動を下の図のように位置づけてみた。



やみくもに体験させることは危険である。文章を読むとき内容を確かに読み取らなければならない。文章の理解をしてやってみることが「体験活動」を行うことである。理解する（読み取る）→やってみる（体験活動）→表現（書く）という活動をすることによって始めて実感（体感）としてわかり、そのことを体得するということである。「体得」したものは、「学ぶ力」として長く残ると述べている。このような体験活動を通して、子ども達の意欲や学力を高め確かな読みの力が育つものと考えられる。

(2) 書く活動を取り入れた確かな読み

読みを確かにするためにも読みを豊かにするためにも書く活動を読み活動の中に生かさなければならぬと考える。

書く活動は子どもの個性的な思考を大切にするという面から、重要視されている。ひとりひとりの子どもに思考の場を与え、そこで思考したことを「書く」ことによって表現させ、読み取りを確かなものとして定着させたいものである。そのためには、文章そのものの理解を図り問題解決の意識を持続させ、文章に主体的に対面させる必要がある。子ども自身による読み取りをもった上で読み取ったことを体験させ発展させる学習として教材文の「書き手」にすることによって読みが深まり、深く読み取ることによって表現が豊かになるという。読み書きの関連が図られるのではないかと考えられる。

書く活動による効果と基本的な留意事項をいくつか上げてみた。

① 書く活動による効果

- ・ひとりひとりの思考の場を持つことができ、書くことによって自分の考えを確かめることができる。
- ・学習に意欲的になり、学習の仕方や手順をワークシート等の利用によって身につけることができる。
- ・学習中の子どもの多様な考え方や感じ方を知ることにより、ひとりひとりの子どもの理解の度合いや思考の深まりを知る手がかりとなり評価の資料となる。

② 基本的な留意事項

・書く意味のある活動を

いかに書くことが大切でもなんでもいいから書かせればよいということにはならない。何を何のために、いつ、どのように書かせるかが明確でなければならない。目的、方法、場をしっかりとさせ、無理なく無駄なく書けるように単元全体を見通して計画させることが大切である。

・書く意欲をもたせる

書く目的があり、必要があるようにしたいものである。書いたものは友達と交換して読み合う、みんなの前で発表する、印刷して読み比べる、掲示して読み合う、というように最終的にどのように扱われるかを知らせてから書くようにしたい。つまり、書いた甲斐のあることが意欲に結びついていく。

・書くことのできる技能をつける

自分の書きたいことが文章に表現できるように、文型に当てはめて書くなどの訓練をして、技能を身につけさせるようにしたい。

・書くためのスピードをつける。

美しく正確に書くことは大切であるが視写や聴写などを機会あるごとに取り入れ、文を速く書くことのできる力をつけておくことが大事である。

説明文を読むことが楽しい「もっとやってみたい」「新しいことがわかった」といった気持ちをひとりひとりの子ども達が持ち、説明文の学習を通して成就感を味わわせたいものである。

2 種かな読みの力でつづけた能力や技能

説明文教材における各学年の系統を明らかにし、学習過程の終末で書く活動を入れるために必要な表現技法を位置づけてみた。

説明文の指導事項（各学年の一単元から挿入）

	読解指導の重点	論理的			力			書く力	
		つなぎ言葉	文末表現	構成	感想・意見	表現との関連			
一年	文章の内容の大体を読み取ること。	順接 逆接	～ます（説明）～でしよう（問いかけ）～です（断定）～のです（断定）	問いと答え 対比・反復	初めてわかったことやおもしろいことなど。	教材の内容と同じような題材を見つけ、文型に当てはめて書く。			
二年	時間的順序、場面の移り変わり、事柄の順序等を考え、内容を読み取ること。	順接 逆接 順序 追加	～ます（説明）～です（断定）～でしよう（問いかけ）～ませんか（問いかけ）～からです（理由）	時間の順序 事柄の順序	初めて知った事や不思議に思ったこと、なるほどと思ったこと。	教材の内容と同じような題材をみて、時間の順序、事柄の順序を考えて書く。			
三年	文章の要点を止しく理解しながら、内容を読み取ること。	順接 逆接 順序	～ます（説明）～です（断定）～でしよう（問いかけ）～ますね（語りかけ）～ません（否定）	変化の順序 立場で考えて 包含・相互関係	自分の読み取った事柄や友達との読み取りについて感想をもつ。	教材の内容から題材を見つけ読み、意見を話し、区切りや中心を考えて書く。			
四年	段落相互の関係を考えながら内容を読み取ること。	順接 逆接 言い替え	～ました（事実）～のようです（推定）～でしようか（問いかけ）～のためです～ありませんでしたか（確認）（理由）	重要さの順序 事例の活用 視点をかえて	自分の経験や考えを比べながら読み伝えること。	学習した内容から題材をみつけ、中心が明確になるように書く。			
五年	文章の要旨を考えながら、内容を読み取ること。	順序 順接 逆接	～あります（事実）～にちがいない（推量）～のです（理由）～だろうか（問いかけ）～ではないか（強調）～みよう（語りかけ）	強調したい事柄の順序	筆者の気持ちや意図を読み取って述べ、批判する。	学習した内容から題材をみつけ、要旨が明確になるように書く。			
六年	目的や文章の種類や形態に応じて内容を読み取ること。	言い替え 逆接 順接	～です（事実）～からです（理由）～そうです（伝聞）～でしようか（問いかけ）	事例と意見との配列	自分の考えと比べながら内容、表現を批判的に考える。	学習した内容から題材を見つけ、組み立ての効果を考えながら書く。			

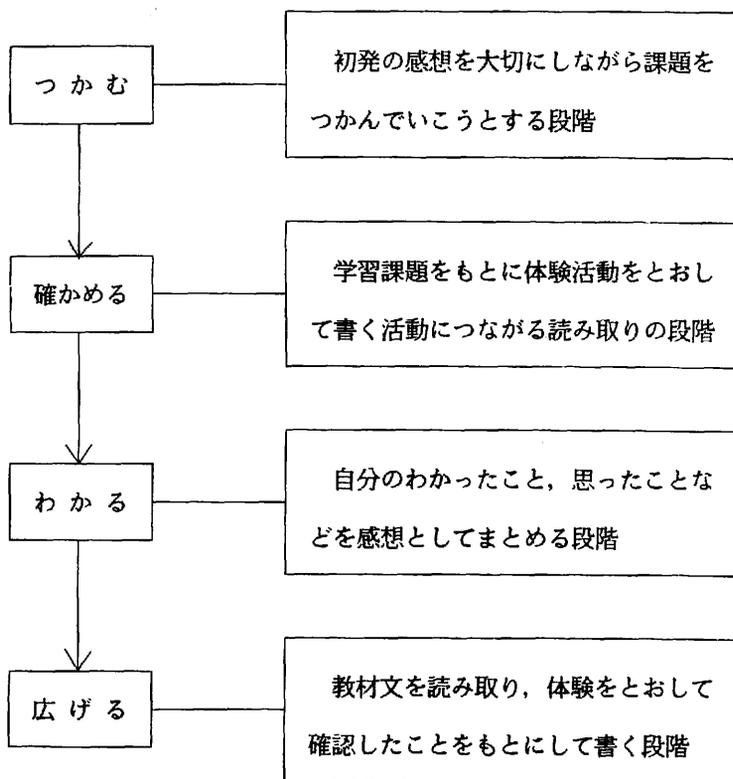
説明文の読みの学習で、めざすものは確かに豊かに読むことであるが、上記の指導事項をふまえ、どの子にも筆者の見方、考え方を追求する。「種かな読みの力」をつける事ができるものと考ええる。

3 確かに読み取らせるための指導の工夫

(1) 体験し書く活動を取り入れた学習過程

ひとりひとりの子ども達が学ぶ楽しさを味わうのは、まず学習の方法や目的がわかり、学習過程の中で、内容を理解し学んだ事を表現できた時だと考える。そこで学習がより主体的に展開される学び方の過程を提示し習得させておく必要がある。

ここでは体験し、書く活動を授業の中に取り入れ、子どもが意欲をもって学習に取り組めるような学習過程を設定した。



① 学習過程

過程	学 習 活 動	学 習 の 手 だ て
つかむ	(1) 文章の内容の大体をつかみ学習の見通しをもつ。 ① 題名読みをする。 ② 初発の感想を書く。 ③ 文章を大まかに区切る。 ④ 学習課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習で読ませておく(20~30回) ・さし絵、図表、写真などを活用し手がかりにする。 ・ワークシートカード等を書く。

確 か め る	<p>(2) 学習課題を解決する。</p> <p>① 内容を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視写や書き込み（ひとり学習）をする。 ・図や写真を手がかりに文章と対比する。 ・重要語句、文末表現、つなぎ言葉などに着目する。 <p>② 体験活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことを実際に体験してみる。 <p>③ 文章全体の構成をまとめる。</p> <p>④ 筆者の立場で読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視写をする。 ・書き込みをする。 ・サイドラインを引く。 ・図や写真を手がかりにする。 ・囲みをする。 ・ワークシートに書く。 ・作ってみる。 ・文章の構成をまとめる。 ・小見出しをつける。 ・書き加えたりする。
わ か る	<p>(3) 自分達の考えや感想をもつ。</p> <p>① 読み取ったことについて、感想や意見をもつ。</p> <p>② 発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者に手紙を書く。 ・紹介文を書く。
広 げ る	<p>(4) 読み取ったことをもとにして書く。</p> <p>① 論の展開や表現の工夫を生かして、説明文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材を決める。 ・文型にそって書く。 ・書いた文を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験したことをもとに書く。 ・書いた文を紹介する。

(2) 評価について

子どもたちが自信を持って取り組んだり、意欲・興味・関心を深めながら、自分のもてるよさを発揮できるようにする。

普段から学級の中でお互いを認め合う、人間関係をつくっておくことが大切である。

① 事前の評価

子ども達の読み取りの実態をつかみ指導の手だてを考える上で参考にする。

② 形成評価

ひとりひとりの読みの実態を把握し、子ども達の理解度、つまずきの様子をつかむためには学習指導の中で発言、机間巡視による観察、ワークシートなどが考えられる。体験活動の意欲も取り入れたい。その中で、つまずきのある子には助言を与えて理解させるようにしたい。

③ 事後の評価

子どもの意欲を大切にしながら書く活動において、学んだ文章構成をもとに説明文を書き、発表させる。そして、細部の読み取りをした子などはしっかりほめてやる。

IV 授業の実践

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名『作り方のじゅんじょは』 (説明文)

教材名『きつつき』

2 単元の目標

- (1) 作り方や遊び方を順序よく読み取ることができるようにする。
- (2) 簡単なおもちゃの作り方を順序よく表現することができるようにする。

3 単元設定理由

2年生の後半にもなると、子ども達は行動範囲も広がり、自分の身近な出来事や、感動したこと、発見したことなどに目を輝かせて意欲的に取り組むようになっている。

2年1組の子ども達を見ていると、テレビを見たりファミコンや既製のおもちゃで遊んだりしたことを楽しそうに話し合っているようすが見られる。そのような子ども達に、身近な材料で簡単に作れるおもちゃ作りをさせることで、手作りおもちゃに対して新鮮なイメージを抱かせると同時に事柄の順序を考えながら読み、話したり書いたり表現する力をつけたいと考えた。

本教材『きつつき』は、2年生の子どもに事柄の順序を考えながら読み、話したり、書いたり、表現させるための説明文である。そのために、きつつきというおもちゃの作り方と遊び方が順序よく、簡潔な文章で、しかも視覚的に表現されている。子どもが興味を持つおもちゃを作って遊んだことを話題にして、作り方や遊んだときの様子を、どんな順序でどのように書いたらよいかを理解させ、実際に書く活動へとつなげることによって、確かな読みの力をつけることをねらっている。

指導にあたっては、説明文と子ども達を1対1で対話させたいと思う。ひとりひとりに「早く作って遊びたい」という気持ちをもたせ、材料を前にして文章と対話させながら、実際にきつつきを作らせていきたい。そして、物事を順序よく捉えさせるために「はじめに」「つぎに」「これで」など、順序を表す言葉を手がかりに筆者の説明の展開に沿って、叙述の読みを確かなものにしていくようにした。

その際、写真などによって言葉を補ったり、言葉をつないだりして、分かりやすく説明していることにも目を向けさせたい。

さらに、他の簡単なおもちゃを作って、友達におもちゃの作り方と遊び方を説明する文章を書かせ、表現する喜びも味わわせたい。

(1) 学級の実態

おもちゃの作り方の説明文を読み、内容を正しく読み取る学習を進めるにあたって、どの程度の読み取りができているか、児童の実態を捉えておく必要がある。そこで、本単元に入る前に大阪書籍2年国語(上)の『かめの作り方』から、読み取りの調査をした。結果は次のとおりである。

説明的文章の読み取り（調査人員36名）

事項	問題のねらい		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
1	何について書いてあるか読み取ることができるか。	できる										
		できない										
2	材料を読み取ることができるか。	できる										
		できない										
3	作り方の順序を読み取ることができるか。	できる										
		できない										
4	順序を表す言葉が分かるか。	できる										
		できない										
5	おもちゃ作りを意欲的に取り組むことができるか。	できる										
		できない										
6	どんなおもちゃを作りたいか。	できる										
		できない										

※作りたいおもちゃ 動くおもちゃ（10人） 動物（17人） ミニヨンク（3人） 戦車（1人）
リカちゃん（2人） ロボット（1人） 潜水艦（1人） わからない（1人）

《分析》

子ども達はおもちゃ作りが好きで、97%の子が作ってみたいと考えている。物を作ることに對して興味・関心をもっていることがわかる。用意する材料は、文章の中にはっきり打ち出されているが、確実に読み取って書くことのできた子が75%で、できなかった子が25%もいる。作り方の読み取りについては56%の子が読み取ることができたが、中には、順序を表す言葉がはっきりせず、作り方の順序が読み取れない子が44%もいる。

したがって、製作活動を通してながら事柄の順序に従って、正しく読み取れるように、順序を表す言葉を的確におさえて、確かに読み取っていく必要があると考える。

(2) 指導について

興味をもって、確かな読みの力をつけるために、次のことに留意して授業を展開したい。

- ① きつつきのおもちゃを提示して作りたいという意欲を高める。
- ② 前書きの文をもとにして学習課題を作り、読みのめあてをもたせる。
- ③ 家庭学習で本読みをさせ、どの子もすらすら読めるようにする。
- ④ 形式段落を①のはなし意味段階を□のまとまりとして段落を意識しながら読むようにする。
- ⑤ 書かれていることが正しく読み取れるように、順序を表す言葉や指示語、文末表現などに留意する。

- ⑥ 興味をもって主体的に取り組めるように、音読、サイドライン、ワークシート、写真などを取り入れたりする。
- ⑦ きつつきをつくる体験をさせ、作り方を理解させ読みを確かなものにする。
- ⑧ 学習したこと（おもちゃの製作過程）をもとにして、作り方や遊びなどを友達に紹介する文章を書かせる。

4 単元における基礎的・基本的事項

(1) 理解

- (イ) 話の順序を考えながら聞き、内容を正しく理解すること。
- (エ) 作る順序に従って、内容を正しく読み取ること。

(2) 表現

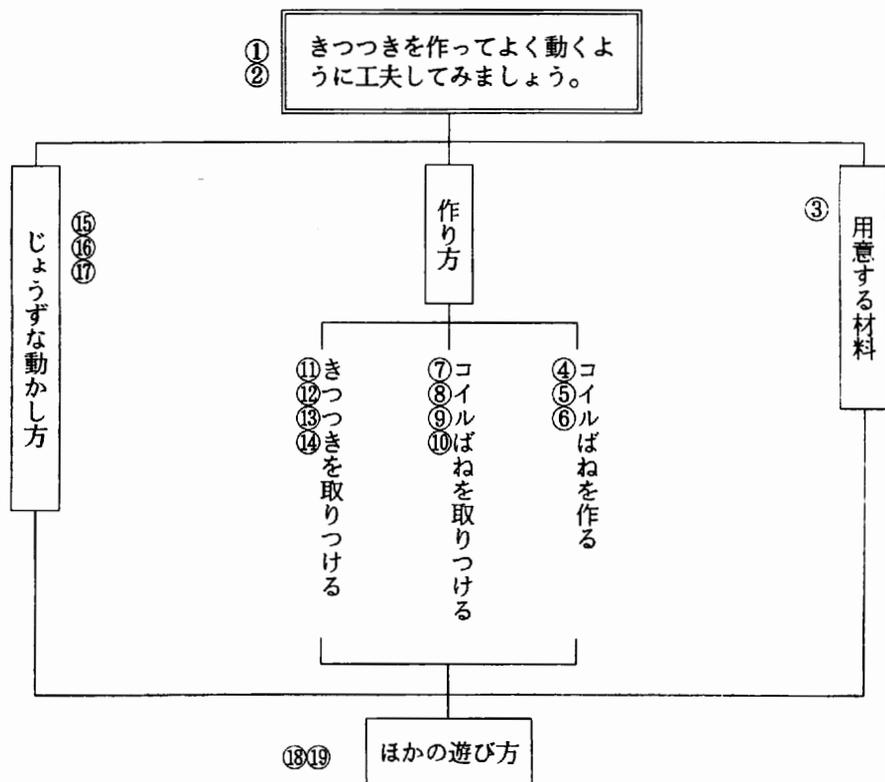
- (イ) 事柄の順序を考えて、整理して話すこと。
- (エ) 事柄の順序を整理して書くこと。

(3) 言語事項

- (1)イ (ア) 文や文章の中で片仮名を正しく使うこと。
- (1)オ (イ) 指示語や接続語、文と文との関係を考えて読んだり書いたりすること。

5 教材研究

(1) 文章構成



(2) 教材分析

構成	形式段落	見出しと要点	重要語句	指示語・接続語とはたらき	文末表現とはたらき
前書き	① ②	みなさんもこのおもちゃを作ってくふうしてみましょう。	つつく くふうする	この（指示語）	ますか（問いかけの表現） です（説明の表現） でしょう（誘いかけの表現）
説明材料	③	一よういする材料	エナメル線 ひとにぎり		
制作の順序	④ ⑤ ⑥	二作り方 (1)コイルばねを作る。	コイルばね まきつける きつく すき間	はじめに（順序） このとき（順接） こうして（順接） つぎに（順序） ～のような（例示）	ましょう（語りかけの表現） ます（説明の表現）
	⑦ ⑧ ⑨ ⑩	(2)コイルばねをとりつける。	ゆるく	まず（順序） つぎに（順序） すると（順接） ～のように（例示）	ましょう（語りかけの表現） ます（説明の表現）
	⑪ ⑫ ⑬ ⑭	(3)きつつきをとりつける。	とりつける	まず（順序） つぎに（順序） その（指示語） そして（順接） ～のように（例示） これで（順接）	ましょう（語りかけの表現） ます（説明の表現） です（断定の表現）
と動かし方	⑮ ⑯ ⑰	三じょうずな動かし方	むき	この（指示語）	ましょう（語りかけの表現） ます（説明の表現） です（断定の表現）
遊発び展	⑱ ⑲	四ほかの遊び方	ひきのばす	そうすると（順接）	ます（断定の表現）

要旨

きつつきというおもちゃを紹介し、「みなさんもこのおもちゃを作って、動くように工夫しよう」と話題を提起し、一よういする材料、二作り方、三上手な動かし方、四ほかの遊び方の順序で説明している。

6 指導計画 (16時間)

過程	学習活動 () 内は配当時間	基礎的・基本的事項	評 価
第一次 つかむ	<p>題名と前書きの文を読みきつきで遊びたいという、意欲を高めめあてをはっきりさせる。</p> <p>(2)</p>	<p>筆者の課題をみつけること。</p>	<p>課題をもつことができたか。 (観察)</p>
第二次 確かめる	<p>教材文を読みきつスキの作り方を理解する。</p> <p>(5)</p>	<p>作り方を順序よく読み取ること。</p>	
	<p>教材文の順序に従ってきつスキの作り方を読み取って作る。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ コイルばねを作る。 ◦ コイルばねをとりつける。 ◦ きつスキをとりつける。 ◦ じょうずにうごかす。 ほかの遊び方を工夫して遊ぶ。</p> <p>(2)</p>	<p>写真と文章を対比しながら読みとること。</p> <p>事柄の順序を読み取ること。</p>	<p>事柄の順序を読み取る事ができたか。 (観察・ワーク)</p>
第三次 わかる	<p>段落ごとに分かりやすく説明するための筆者の工夫や付け加えについて話し合う。</p> <p>(3)</p>	<p>作り方の順序に従って作ること。</p> <p>叙述に即した文章を読み取ること。</p>	<p>順序に従って作る事ができたか。 (観察)</p> <p>筆者の表現の工夫を見つける事ができたか。 (ワーク)</p>
第四次 広げる	<p>身近にある簡単なおもちゃ作りを紹介する説明文を書く。</p> <p>(2)</p>	<p>順序を表す言葉がわかること。</p>	<p>指示語や接続語の用法がわかったか。 (テスト)</p>
	<p>作ったおもちゃの作り方や遊び方を発表する。</p> <p>(2)</p>	<p>箇条書き、写真、文末、見出しなど効用にきづくこと。</p> <p>順序を表す言葉を使って作り方がわかるように書くこと。</p> <p>おもちゃの作り方をはなすこと。</p>	<p>おもちゃの作り方を順序よく書く事ができたか。 (作文)</p>

(1) 単元の展開

過程	学 習 活 動	指 導 事 項 (基 礎 基 本)	留 意 点
つ か む (2)	<p>○「きつつき」という題名から知っていること、イメージできることを話し合う。</p> <p>○きつつきと遊ぶ。</p> <p>○前書きの文を読み、学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>きつつきを作って、よくうごくようにくふうしてみましょう。</p> </div>	<p>○筆者の課題を見つけること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「きつつき」がイメージできないときは図鑑や体験を提示する。 ・グループに一つずつ与える。
確 か め る (7)	<p>○教材文を読み「きつつき」の作り方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よういするざいりょうについて読み取る。」(ワークシート) ・「コイルばねを作る」を正しく読み取る。(ワークシート②) ・「コイルばねをとりつける」を正しく読み取る。(ワークシート③) 	<p>◎必要な材料を用意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エナメル線 ・ひとにぎり <p>◎「作り方」「注意すること」を読み取ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すき間がないように。 ・きつくまきつける。 ・5cmぐらい。 <p>◎コイルばねの取り付け方を読み取ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆるく。 ・上下に小さくゆれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真をみながら、何がどれくらい必要かを話し合わせる。 ・「～ぐらい」の叙述に注意させる。 ・順序をおさえて確かに読ませる。 「はじめに」 「つぎに」 ・ポイントをおさえさせる。

<p>確 か め る (7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「きつつきをとりつける」を詳しく読み取る。 ・「じょうずな動かし方」を読み取る。 ・きつつきを使って遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「きつつきをとりつける」を正しく読み取ること。 ・「4 cmぐらい」→絵のきつつきを切り抜く。 ◎「じょうずなうごかし方」を読み取り、きつつきと遊ぶこと。 ・指で軽くはじく。 ・コツコツとつつく。 ・むきをかえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「⑤のように」をおさえて、写真と対応させる。「まず」「はじめに」「そして」 ・3点を確かめさせる。 ・よく動かない子は、教師と一緒に考えてやる。
<p>広 げ る (4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○家で作ってきたおもちゃの作り方を説明する文章を書く。 ・順序を表す言葉を使って書く。 ・注意すること、工夫した子と ・さし絵もいれて説明できるように書く。 ・遊んだときの様子や思ったことなどを書く。 ○自分の作ったおもちゃの作り方や遊び方を説明する。 ・書いた作品を読み合う。 ・発表会の計画を立てる。 ・おもちゃ発表会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎おもちゃの作り方の説明文を書くことができること。 「はじめに」 「まず」 「つぎに」 ◎自分の書いた説明文を紹介することができること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習でおもちゃを作らせる。 ・きつつきを参考にして「前書き」「よいするざいりょう」「作り方」「遊び方」のように書かせる。 ・さし絵を取り入れさせる。 ・グループで読み合うようにする。 ・役割分担について話合う

(2) 評価

- ① 作り方や遊び方を順序よく読み取ることができたか。
- ② おもちゃの作り方を順序よく表現することができたか。

7 本時の指導（第三次 1～2時間）

(1) 授業仮説

教材文『きつつき』の制作過程において、順序を表す言葉に着目させ、文章と対話させながら、実際に「きつつき」を作らせることによって、「きつつき」の作り方を理解し読みを確実にしていくであろう。

(2) 本時の目標

順序を表す言葉に気をつけながら、「きつつき」の作り方を確実に読み取り「きつつき」を作ることができる。

(3) 本時の展開

	学 習 活 動	◎指導事項（基礎・基本）▼教師の働きかけ	留 意 点
つ か む	1 前時の学習を想起する。	▼前時を振り返りめあての確認をさせる。	・筆者の呼びかけを学習のめあてにする。
	2 本時のめあてをつかむ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> めあて きつつきを作って、よくごくよくにふうしましょう。 </div>	
確 か め る	3 ワークシートと教材文をもとに実際にきつつきを作ってみる。	◎用意する材料がわかること。	◇評価の観点 用意する材料がわかる。
	(1) ひとり学習をする。	◎順序を表す言葉に気をつけて、きつつきを作ること。	
	① コイルばねを作る。	◎コイルばねを作ることができること。	
	▼気をつけることを確かめながら順序に従ってコイルばねを作らせる。 (ワークシート②)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 押さえない語句 きつく まきつけ。 すき間がないよう。 とりつける。 ゆるくまきます。 </div>	
② コイルばねをとりつける。	◎コイルばねをとりつけることができること。	・写真と文を対比しながら作らせる。	
③ きつつきをとりつける。	▼取り付け方に従ってコイルばねを竹ひごに取り付けさせる。 (ワークシート③)	◎きつつきを取りつけることができること。	◇評価の観点 意欲的にきつつきを作ることができたか。

<p>確 か め る</p>		<p>▼④の写真のように取りつけさせる。 (ワークシート④)</p> <p>▼机間指導をしながら、全体の様子を把握する。</p> <p>▼書いてあるとおりに正しく作れない時は助言をあたえる。</p>	<p>◇評価の観点 制作過程の順序に従ってきつつきを作る事ができたか。</p>
<p>わ か か る</p>	<p>4 他の遊び方を工夫して遊ぶ。</p>	<p>◎きつつき以外のものを取り付けたおもちゃで遊ぶこと。</p> <p>▼きつつきのところに他の物を取り付けさせる。</p> <p>▼おもちゃによってコイルばねの揺れかたの違いに目をむけさせる。</p> <p>▼作った子は文と照応させ確かめさせる。</p>	<p>・作り終わった子はわかった事、思った事を書かせる。</p> <p>◇評価の観点 他の物を取り付けて遊ぶ事ができたか。</p>
<p>広 げ る</p>	<p>5 知的感動を発表する。</p>	<p>◎知的感動を発表することができること。 (ワークシート)</p> <p>▼きつつきを作った成就感をあげさせる。</p>	<p>・知的感動を大事にする。</p> <p>◇評価の観点 知的感動を発表できたか。</p>

(4) 評価

順序を表す言葉に気をつけながら、「きつつき」の作り方を確かに読み取り、「きつつき」を作ることができたか。

(3) 体験活動を通して

確かに読み取らせるためには、重要事項である順序を表す言葉や、キーワードをおさえて、事柄の順序を読みとらせ、ワークシートに書き確認していった。そして、ワークシートと教材文をもとに実際に「きつつき」を作らせる体験活動を取り入れた。

体験活動において、子どもたちは「きつつき」を作ってよく動くようにくふうしましょう

という課題をもち「はじめに」「つぎに」「まず」と順序を表す言葉をおさえ、どのような順序でつくるかを読み取ることができたようである。順序を表す言葉は、ほとんどの子が捉えているようであった。

しかし、「コイルばねを作る」で、エナメル線を竹ひごにまきつけるところのキーワードである「すき間がないようにきつくまきます」「5, 6, cmぐらい」という語句にとらわれすぎて時間がかかる子もいた。コイルばねを作ったのに何度もやり直しているうちにエナメル線にねじれた玉ができてしまい、きちんとできなくなったものもあった。「すき間」「…ぐらい」というキーワードを一斉指導の中でもう一度確認する必要があった。

また、「きつつき」の大きさの読み取りが弱く再度と文と照応させて、大きすぎて動きのよくない子を例にあげ小さくて動きのよいものと比較して考えさせて見た。すると、「あっ、わかった」と、きつつきを作り直しよく動く「きつつき」になるように取り組んでいる様子が伺えた。

中には教材文を確かに読み取って、6分で作り終わり他の遊び方の工夫をして遊んでいる子もいた。

2時間の制作過程において、全員の子が作りあげることができたが、よく動くきつつき

にするためにかなり苦心していた。「…2, 3回ぐらい」とか「ゆるく」…などの言葉に返って読むことに気づき制作することができた。

自分の作った「きつつき」を動かし、友達のものとは比べるといろいろな動きがあって、さらにおもしろくなるという様子がみられた。このように、体験活動を通すことによって、確かな読み取りができたのではないかと考える。

VI 成果と今後の課題

1 成果

- (1) 実態調査をし、子どものつけている能力を明確にする授業を組織することができた。
- (2) 説明文の基礎的・基本的事項をおさえることができた。
- (3) キーワードに着目した読み取りができ、内容を確認するために文章に立ち返ることの大切さが分かるようになってきた。
- (4) 教材文の構成や筆者の意図する表現の工夫を読み取ることができるようになった。

2 課題

- (1) ひとりひとりの子どもの個性を引き出すための指導と評価の一体化を図る。
- (2) 学習過程における発問の仕方と指示の工夫。
- (3) 事柄の順序を押さえた表現力の定着を図る。

《主な参考・引用文献》

『新しい学力観に立つ説明文の授業はいま』	石田佐久馬 著	東洋館出版社	1993
『豊かな読みと確かな読み』	石田佐久馬 編	東洋館出版社	1992
『書くことを生かした説明文の授業』	石田佐久馬 編	東洋館出版社	1992
『説明文で何を学ばせるか①—低学年—』	石田佐久馬 編	東洋館出版社	1988
『学ぶ意欲を育てる国語科の授業2年』	渋谷 孝 他編	教育出版	1991
『書いて深める説明文の授業』	八戸市小学校 国語教育研究会著	国土社	1993
『理解 国語科基本的能力の指導体系「文章構成」の指導』	小川 裕子 編	明治図書	1988
『体験活動はこう創る16「追求の鬼」を育てる』	有田和正著作集	明示図書	1989
『国語科の学習指導案(2)年』	小森 茂 他編	国土社	1992
『研究紀要』	広島市立皆実小学校		1992
『国語教師用指導書(2)年上』	教育出版 編	教育出版	1992